



DIST.NO.2530

# ROTARY CLUB OF FUKUSHIMA

## WEEKLY REPORT

### 2013-14 年度 福島ロータリークラブ会報 vol.36

■例会日/2014年3月27日(木) ■開会点鐘/12:30  
■会 場/ホテル[辰巳屋]8F

■ 3月は「識字率向上月間」です

福島ロータリークラブホームページ  
<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町5の1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12:30 【例会場】ホテル辰巳屋 8F  
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp



#### 第35回 会長挨拶

2013-14年度 会長  
**紺野 晴郎**

本日は中島日本銀行福島支店長様の卓話がございます。これからの日本と福島への行く末、そして、私たちの行くべき方向を短観を踏まえて拝聴したいと存じます。

私たちの身近においては、東京オリンピック開催と、福島原子力発電所事故の除染作業による労働力不足と、アベノミクスによる賃金の上昇により、経営者は新規雇用者と従来の不景気時代の雇用者賃金との折り合いや消費税増税における転嫁と、多くの悩みを抱えながら新しい時代へと進んでいかなければなりません。福島に合う産業と環境を考えながら、ロータリークラブも時代に合った真の奉仕を考えなければならない時期に来たのではないかと思います。

#### PETS 報告

2014-15年度 会長エレクト **丹治 正博** 会員

去る3月8日(土)・9日(日)の両日、国際ロータリー第2530地区2014-15年度PETS(会長エレクト研修セミナー)が福島市飯坂町の摺上亭ホテル大鳥を会場に開催されました。

当日は渡邊公平ガバナー、野崎 潔ガバナーエレクトを始めバスターガバナー、次年度ガバナー補佐、地区研修リーダー、地区内65クラブの会長エレクト(次年度7月1日からクラブ会長予定者)総勢111名が一堂に集い、指導・訓練が行われました。

会長エレクトは、就任年度への準備を整えるためにPETSに出席することがとくに義務づけられており、欠席するとクラブ会長に就任することができません。初日は、第1セッションでRIテーマと地区目標、クラブ会長の役割と責務、クラブ管理と運営について、第2セッションでクラブ奉仕始め5大奉仕の役割についての講義が行われ、夕刻からは参加者全員での懇親会が催されました。2日目は戦略計画委員会を始めロータリー財団、米山記念奨学会の役割について、続いて次期ガバナー補佐と会長エレクトの懇談会が行われ、質疑応答、大橋PGの総評があり、正午前に開会点鐘、散会しました。PETSを受講して会長の責務の大きさを再認識致しました。次年度に向けての準備がいよいよ本格化します。

#### 例会 次第

### 会員スピーチ

日本銀行福島支店長 **中島 健至** 会員

開会点鐘 紺野晴郎 会長

ロータリー・ソング

「福島ロータリークラブの歌」

ソングリーダー 安藤健次郎 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介  
新会員入会式

会長挨拶

幹事報告

各委員会報告

●プログラム・ニコニコBOX小委員会

ニコニコBOX担当

閉会点鐘



紺野晴郎 会長

日比野恒夫 幹事

浦部 博 委員

紺野晴郎 会長

#### 例会プログラムのご案内

■ 4月10日(木) → 12日(土) に変更

職場訪問例会 「福島RC会長賞」

12:30~「JRA福島競馬場6F特別来賓室」

■ 4月17日(木)

18:30~「石林」

「観桜夜間例会」

■ 4月24日(木)

12:30~「辰巳屋」

・会員スピーチ

後藤洋伸会員(後藤造園株)

#### — その他4月のクラブ行事 —

■ 4月17日(木)

9:05スタート「民報コース」

「福島RCゴルフコンペ」

■ 4月20日(土)

8:30スタート「安達太良CC」

「県北第一分区親善ゴルフ大会」

#### 幹事報告 日比野恒夫 幹事



##### 例会変更のお知らせ

● 福島北RC、4月1日(火)の例会は理事会承認休会となっております。

##### その他のお知らせ

● ロータリーレートは4月も変わらず1ドル102円との連絡が届いております。

● 次週4月3日(木)18時30分より辰巳屋にて4月理事会を開催致します。



## 会員スピーチ



日本銀行福島支店長  
**中島 健至** 会員

改めまして、今日は、日銀福島支店の中島でございます。本日はこうして皆様の前でお話をさせて頂く機会を頂き大変光栄に存じます。また、皆様には、常日頃から日銀福島支店や当店職員が様々な形で大変お世話になっており、この場をお借り致しまして改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、会員スピーチということでございますが、どのようなお話するのが良いか、なかなか悩ましく思いながら今日の日を迎えました。先程も紺野会長から、経済の話、消費税の話、というお言葉がございましたし、日比野幹事からは、短観の話、とのリクエストを何度か頂いておりましたけれども、実は来週の火曜日に新しい短観の結果が出るという微妙なタイミングでもございまして、折角お話を頂いたのに大変心苦しく思いながらも、短観の話、経済の話はまた別途の機会に譲るのが良いかと考えました。

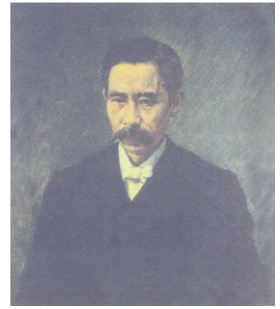
他方で、昨年5月に渡辺健寿先生のご紹介を頂き会員にして頂いて、早いものでもうすぐ11か月となりますので、ここで改めて自己紹介、自分の生い立ちをお話するというのも大変気恥ずかしい思いが致しましたので、その代わりと言っては何ですが、私が中学・高校時代を過ごしました京都・同志社、その礎を築いた新島襄の半生を振り返りながら、私自身のご紹介に代えつつ、今の日本の社会や経済にも繋がるメッセージを、私なりに拾い上げてみることにしたいと思います。

このように思い立ちましたのは、もちろん、昨年の大河ドラマ「八重の桜」の中で、山本覚馬さんや八重さんを通じて、同志社や新島襄にも光を当てて頂いたことがきっかけです。この点、高橋局長には感謝を申し上げたいと思います。ただ、私自身は、正直なところ、昨年まで同志社にそれほど強い思い入れがあった訳ではございませんでした。大学は別のところに進み、その後は東京に本社がある会社に就職をしましたので、むしろこの30年間は疎遠であったというのが正確だと思います。

同志社では、新入生にまず「聖書」の時間を課し、その中で新島襄の一生を勉強させます。私自身はクリスチャンでもございませんし、ただ父の実家が同志社のお隣にあったものですから何となく親近感があった、その程度の思い入れで入学したのが実情です。ですので、もちろん中学時代は真面目に襄のことを勉強するでもなく、遠い存在でしかありませんでした。「聖書」の授業も、退屈な時間だとばかり考えておりましたし、おそらく大半は居眠りしていたと思います。

ところが、昨年、それまで全く血縁も地縁もなかった

この福島の地に、しかも、福島と自分の故郷とが深く繋がっているという歴史に焦点を当てたドラマや話題で盛り上がっている時期にその地に赴任するという、何とも言えない運命的なご縁に恵まれ、また、ドラマの中で襄を非常に親しみのもてる人間として描



いて頂いたおかげもあって、改めて新島襄の人生を勉強し直してみようという気持ちになった訳です。

早速、同志社の校務センターに何十年か振りにコンタクトを取り、色々お話を伺ったり資料を送って頂いたりして、新島襄の歴史をひも解いてみますと、実に密度の濃い、面白い人生を歩んだ人だということ、改めて認識しました。

以下、スライドに沿いまして、ドラマではあまり描かれていなかった、八重さんと出会うまでの新島襄の半生を追っていききたいと思います。

### 新島襄・山本八重(1845～1932年)と出会うまでの半生

#### ◇1843年1月14日(新暦:2月12日)

安中藩主板倉家の江戸屋敷(神田)に生まれる。幼名は七五三太。

曾祖父:忠七、祖父:弁治(足軽の監督)、父:民治(祐筆)

#### ◇1851年

転倒しこめかみに裂傷(2か月間自宅療養→勉学に目覚める)。

#### ◇1853年

藩主板倉勝明の命により学問所へ。蘭学と出会う。

#### ◇1859年

蘭学者杉田廉卿に学び、ロビンソン・クルーソーや漢訳聖書と出会う。

#### ◇1860年11月

軍艦教授所にて、中浜万次郎らから航海術を学ぶ。

#### ◇1862年11月12日

その経験を買われ、備中松山藩主板倉勝静の品川～玉島航海に同乗。

#### ◇1864年3月

松山藩士の友人を頼り快風丸の箱館航海に潜入。箱館にてロシア人宣教師に出会い日本語教師に。

#### ◇1864年6月14日

米商社の通訳福士卯之吉を頼り、商船ベルリン号に潜入し密航・脱国。

#### ◇1864年8月1日

上海にてワイルドローヴァー号に乗り換え出航。

#### ◇1865年7月20日

ボストン着。南北戦争直後の混乱もあり80日間、船の留守番。

◇1865年10月11日

漸く船主ハーディーに出会い、二晩徹夜して書き上げた「脱国の理由書」を提出。その後、ハーディーの薦めでフィリップスアカデミーに入学。

◇1867年9月1日

フィリップスアカデミー卒業後、アーモスト大学へ。リベラルな教授陣の下、自然科学を学ぶ。

◇1870年

大学卒業（米大学を卒業した初の日本人）。牧師になる決意の下、アンドーヴァー神学校へ。

◇1872年

駐米公使森有礼から岩倉具視遣外使節団の教育調査団への参加要請を受ける（免罪）。

◇1874年11月28日

安中にて10年半振りに家族と再会。

◇1875年

キリスト教を土台とした学校設立のため大阪へ。木戸孝允らの助力により知事や寄付者に出会うも、キリスト教は認められず、大阪開校を断念。

◇1875年4月

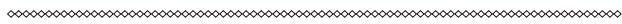
休養先の京都にて、木戸の紹介により榎村知事や山本覚馬と出会う。

◇1875年11月22日

山本覚馬の協力の下、京都府から私塾開業許可（校内で聖書は教えない）。

◇1876年1月3日 山本八重と結婚（襄32歳）。

「新島襄への扉」編集委員会編「新島襄への扉～真誠の自由を求めて」（日本キリスト教団出版局）より作成



さて、以上の半生を振り返ってみて、私が受け取ったメッセージは3つあります。

ひとつは、「夢を持つとか情熱を持ち続けることが、人間や人生にもたらすパワーの大きさ」です。

新島襄は、おそらく何の勝算もなく、リスク計算もなく、後先も考えずに、ただ、「海外で何が起きているのか体験してみたい」、「そこで学んだことはこれからの日本に絶対に活かせるはずだ」という情熱と信念で、「無謀」とも言える「密航・脱国」を敢行する訳ですが、その情熱は、襄自身の原動力となっただけでなく、周りの人たちをも揺り動かしました。本人の大変な苦勞もありましたが、結果的には、彼の周りにいた様々な人たちの暖かい助けがあって、彼の夢は成就していくことになります。

冷静・冷徹な判断ももちろん大切ですが、何か事をなす時には「情熱のパワー」がその成否を左右することを感じます。

もうひとつは、「やってみることで、何かが起こり、何かが残る」ということです。

実は、新島襄自身が設立に関わった学校というのは、今私が確認できるだけでも6つほどあるのですが、そのうち現存しているのは、同志社と群馬の共愛学園の2つしかなく、他は殆ど設立後10年以内に財政難で廃校になっています。東北にも、仙台に宮城英学校（その後、東華学校に名称変更）を作りましたが、6年で廃校になって

寒梅 新島襄  
庭上一寒梅  
笑侵風雪閑  
不爭又不力  
自占百花魁

庭先にある一本の早咲きの梅が、きびしい風や雪の寒さにもめげず笑うが如くに開いている。一番咲きを争うこともなく、また特に努力するでもないが、それでいてあらゆる花のさきがけとなって咲いている。まことに謙虚な姿であり人もこうありたいものである。

います。つまり、多くの失敗を重ねる中で、何とか1つ2つの成功を収めている、というのが実態です。

新島襄に限らず、この時代の人たちの逸話を振り返りますと、失敗を恐れない勇気とバイタリティーに溢れていたこと、一つの大きな成功の裏には数知れない失敗があること、を教えられます。

これからの厳しい時代、福島経済、日本の経済の持続的な発展を考えた場合、当時の人々のように、「自分はこうしたいんだ」という強い気持ち、リスクを飛び越えて兎に角やってみる勇気がますます重要になってきているように思います。もちろん、「慎重に対応した方が正しかった」、「そのおかげで助かった」というケースも多々あるかと思いますが、「やらないという決断が可能性を殺している」、「やらないと決断した段階で、可能も即不可能になる」、そういう目線を持つことも、特にこれからの時代は大事かも知れない、そんな気がしております。

最後に、「人の人との縁、繋がりの大切さ」です。

新島襄の人生を振り返ってみても、船長から船主へ、森有礼から木戸孝允へ、木戸孝允から山本覚馬へと、非常に細い糸ではあるものの、事前には全く予想だにできなかったであろう運命的な、あるいは奇跡的な「人と人の繋がり」によってこそ、結果的に、多くの人々を引き付けその人生に多大な影響を与える学校の設立が実現したと言っても、強ち過言ではなからうと思います。襄自身も遺言の中でこう言っています。「これまでの事業をみて、あるいはこれを私の功績とする人がいるかもしれない。けれどもこれは皆、同志の皆さんの援助によって可能となったことであり、自分ひとりの功績とは決して考えてはいない。ただ皆さんのご厚意に深く感謝する。」

このロータリーの集まりもそうだと思います。異分野の人たちが一堂に集う中で、シナプスが働くように、おそらく様々な出会いやアイデアが皆さんの中でも生まれているでしょうし、これからも生み出されていくのだらうと思います。今回、私も改めて今の同志社で働く方々のご縁ができましたし、やり取りを通じて、同志社の方々にも福島を何がしかお伝えできたかなと感じています。今回の経験を通じて、幅広く人々のご縁を持つことは、お互いの人生を豊かにし密度の濃いものにするということだと思いましたが、私自身、これからもどんどん各方面に福島を発信していきたいと考えています。

以上で私の話を終わります。ご清聴有り難うございました。



## 新会員入会式



日本中央競馬会福島競馬場 場長  
**今井 康 様**  
(推薦者…佐藤英典会員)

生年月日/昭和34年3月20日(55歳) 血液型/O型  
出身地/大阪府 家族構成/妻  
経歴/昭和58年3月 関西学院大学法学部卒  
" 4月 日本中央競馬会入会  
以来、主に総務・労務関係に携る。  
平成13年2月 京都競馬場 総務課長  
15年2月 競走関連部 きゅう舎課長  
20年1月 栗東トレーニングセンター副課長  
22年3月 総務部 部長補佐  
26年3月 福島競馬場 場長  
趣味/スポーツ観戦(特に格闘技・野球)  
ゴルフ(4~5年お休み中。右へ左へと曲がります)

釣り(水辺が苦手です)  
タバコ(ヘビースモーカーです)  
お酒(ほとんど飲みません)  
ひと言/福島勤務は初めてです。競馬場は、中京・函館・京都、事業所は美浦・栗東の両トレセン等に勤務経験があります。昨年で勤続30年になりました。楽天的で大きっぱな性格で、あまり物事にこだわりのない方です。



**血圧測定**  
児玉胃腸科内科  
医院 看護師  
**市場 美奈 様**  
…児玉健夫会員



**加藤義朋 会員**  
確定申告シーズンを終えて再度税金を納めることになられたロータリアンが、さぞかし多数おられると思います。ロータリー財団寄付金、米山寄付金ともに免税措置があることをご存じでしょうか？  
さて、山本良一氏責任編集の「世界を変えるお金の使い方」の本の中から、斉藤 槇氏の文章を転記させていただきます。  
『お金はなんのためにあるか?』こんな質問に皆様はどう答えますか?  
稼ぐ、使う、増やす、貯める、借りる…おそらくこういった答えが、一般的でしょう。広告代理店で働いていた頃、私は最初の5つの答えしか持ち合わせていませんでした。  
一生懸命働いてお金を稼いで、休日になると大好きな旅行でお金を使い、残ったお金は銀行預金をして利息を増やして貯める。たまにお金を使いすぎてお財布が空っぽになると、

親に借金という情けないことも、そして時々、罪滅ぼしを兼ねて環境や人権NPOへ寄付をする…そんな生活を送っていました。(中略)  
私たちの心がけ次第で、買い物・投資という日常のふつうの行為が実は、社会革命につながります。それは一人だけの参加では小さな変化にすぎませんが、皆でやれば大きな潮流になるはず。お財布を通じた投票活動、一緒に広げていきませんか?  
—ちなみに、このタイトルは、「お財布からの投票」です。  
最後に、ロータリー財団を良く知るロータリアンは、「よく国際ロータリーとロータリー財団は車の両輪と言われています。財団奉仕活動と資金調達はまさに車の両輪でございます」と述べられます。わたしは、「日本ロータリーと(財)ロータリー米山記念奨学会は車の両輪すなわち、米山奉仕活動と資金調達はまさに車の両輪でございます」と。  
これらの寄付金には免税措置があるので、寄付活動を一緒に広げていきませんか?

## ニコニコBOX報告

本日のニコニコBOX投入額 28件 ¥65,000 累計 ¥1,793,000

- ▶ **紺野 晴郎 会長**  
昨日、春山山にて誕生パーティを開いて頂きました。RCの友情に感謝いたします。AKBやらEXILEやら手品やらでとっても楽しかった59回目の記念日でした。
- ▶ **日比野恒夫 幹事**  
中島支店長のスピーチ楽しみにしています。
- ▶ **佐藤 英典 会員**  
福島競馬場長、今井 康様の入会を歓迎します。
- ▶ **今井 康 会員**  
新規にお仲間に入れていただきます。よろしくお願いたします。



浦部 博 委員

- ▶ **加藤 義朋 会員**  
先日、福島県医師会から喜寿の祝いをしていただきました。そこで加藤桂一郎福島RC会員にお会いしました。声の方も元気になられて嬉しくなりました。
- ▶ **幡 研一 会員**  
大分暖かくなってきました。桜の花もそろそろですね。
- ▶ **土屋 敦雄 会員**  
先週は私の拙い歌をお聴きいただきありがとうございます。
- ▶ **志村 光昭 会員、渡部 世一 会員**  
中島会員のスピーチを楽しみにしております
- ▶ **中島 健至 会員** 本日スピーチをさせていただきます。

他に .....  
有田 吉弘/安藤健次郎/今井理基夫/岩田 尚志/海野 卓哉/浦部 博/江花 亮/加納 武志/金子與志人  
小林 仁一/白岩 康夫/菅沼 裕/高橋 聡/増子 勉/松浦 敬裕/牧野 吉晃/森 洋一/森川 英治